

## ■振興審議会専門部会 会議録

第4次総合計画の総括（中間報告）と次期計画で考えなければならない視点について、総括（案）を事務局より示し、振興審議会専門部会の各部門委員から意見をお聞きした。

### ○総務専門部会（8/27 開催）

【委員】北川忠明委員、渡部秀一委員、安部義彦委員、青木孝弘委員

【部会長】委員の互選により、安部委員を部会長に選出。

#### 【施策範囲】

主要施策 No. 1 協働、No. 2 男女共同、No. 3 交流、  
No. 12 循環、No. 13 共生、No. 21 情報化、No. 22 行財政

### ○文教専門部会（8/28 開催）

【委員】加藤弘二委員、吉田重成委員、鈴木周子委員、磯村志津香委員

【部会長】委員の互選により、加藤委員を部会長に選出。

#### 【施策範囲】

主要施策 No. 14 学校、No. 15 生涯学習、No. 16 スポーツ、No. 17 文化芸術、No. 18 文化財、  
No. 12 循環、No. 13 共生、No. 21 情報化、No. 22 行政財

### ○厚生専門部会（8/30 開催）

【委員】竹田喜博委員、高石祐子委員、齋藤真知子委員、勝見英一朗委員、平吹登委員

【部会長】委員の互選により、勝見英委員を部会長に選出。

#### 【施策範囲】

主要施策 No. 9 健康・福祉、No. 10 保健・医療、No. 11 安全・安心、  
No. 12 循環、No. 13 共生、No. 21 情報化、No. 22 行財政

### ○産業・建設専門部会（9/3 開催）

【委員】齋藤道郎委員、横澤泰雄委員、馬場先委員、野村浩志委員、勝見裕子委員

【部会長】委員の互選により、齋藤道委員を部会長に選出。

#### 【施策範囲】

主要施策 No. 4 農業、No. 5 林業、No. 6 工業、No. 7 商業・観光、No. 8 雇用、No. 19 交通基盤、No. 20 都市基盤、  
No. 12 循環、No. 13 共生、No. 21 情報化、No. 22 行財政

※No. 12 循環、No. 13 共生、No. 21 情報化、No. 22 行財政は、全部門共通事項として検討いただいた。

## ■協 議

### 【総括（案）に対する意見・質疑】

#### ◆主要施策 No.1 協働

○コミュニティ助成事業とは何？（A委員）

→宝くじの支援事業。主にハード事業が多い。（事務局）

→ハード事業として公民館建物の建築費助成の他、祭の用具購入費のための申請も多い。（副市長）

○ICT利用の協働だが、今後はこれが重要になってくるのだろうか？（A委員）

→若者が非常によく使っている。ただし、様々な媒体の一つとして考えている。（事務局）

→福島県飯館村は原発事故の影響で村民が散り散りになってしまったが、国が村長に5,600台のスマートフォンを提供し、これを村民に渡して村民の意見を取りまとめている。（事務局）

○協働とは何かというと、NPO だと思うが、では何のために協働をやるかということと雇用がこれからの課題になると思う。（B委員）

○長井市の『まちづくり基本条例』とは、どのようなことをやっているのか？パブコメはどれくらいあったのか？市ホームページへのアクセス数は？私は行政に任せないで市民が自分たちでやりなさいと提言している。（B委員）

→『まちづくり基本条例』で上がってくるパブコメは企画調整で集計しているので数量は出せる。ただし、実際に上がってくるのは少ない。（事務局）

→ホームページ経由で上がってくるパブコメは企業関連が多い。議会傍聴もできるがそこまで至っていない。この条例をいかに市民に浸透させるかが課題。（事務局）

→パブコメの募集について、ICT はうまく活用すればよいが、私はあまり信用していない。便利な道具に頼ると良くない。顔と顔を合わせて話し合った方が良い意見が出る。また、どの団体にも属さない人は手を挙げにくい。意見が行政に届くことが市民の出発点。（B委員）

○総括の評価は多数決で決めるべきではない。成果は具体的に挙げていただかなければならない。最大の課題は雇用と産業の創出。これをNPOのベースにして連携協力して頂きたい。（C委員）

○行政職の意識をもっと高くして、職員から課長経由で市長まで提言する政策形成過程を整備すべき。また、行政職員の間でも政策意見を集約してもらいたい。政治家よりも官僚の方が行政の実態に詳しいように、市職員の能力も高めてもらいたい。（C委員）

→是非そのようにしていきたい。以前は職員の能力アップ研修も予算削減のため縮小されていたが、2年前から研修費を予算化して現在は積極的に研修に参加している。その結果はまだ出ていないが、今後出てくると思う。また、近隣市町との意見交換会も行っているのでここでの活動も期待できる。（副市長）

→パブコメに関して、NPO は割とパブコメを集約しているのでは？また、地区長会を通して、市議会に上がってくる意見もある。今後は、パブコメは進むと思う。（C委員）

○主要施策22本の中で、No.1の協働が最重要。総括（案）で、課題として「協働理解が深まっているか確認が取れていない」とあるが、これでは行政は何やっているのか、と批判が出る。NPO や地域住民に聞くことも必要。（D委員）

○需要拡大と雇用創出について、NPO へのアウトソーシングも増えている。指定管理制度も関連する。総括

では行政側だけの視点ではなく、広い視点からの評価をしてほしい。(D委員)

→先月実施した市民アンケートで得られた市民の意見も入れていく。NPOにも聞いて集約する。(事務局)

- 東日本大震災後、ボランティアを市と共同で組織した。これは県内でも稀な事例。ところが、震災が落ち着いてくるとボランティアが減っていった。当初の熱意をそのまままちづくりに利用しなかったが実現できなかった。彼らの能力をまちづくりのためにどう引き出すかも課題である。(D委員)

#### ◆主要施策 No.2 男女共同参画

- 女性の委員等の割合について、国や県で目標値はあるのか？また、市に男女共同参画の推進委員会はあるのか？(A委員)

→管理職、市議について目標設定をしたいが難しい。また、市職員でも女性だけの集まりはない。女性の組織体も脆弱な状況。民生委員に関しては女性の割合が多い。(副市長)

- 意見を出して影響力が強いのはむしろ各団体の女性部。商工会議所の女性部などは非常に強い。地区長に関して、しばらく女性地区長が出ていない。地区長の役割は大変だと聞いた。市から委託された書面を自宅の部屋に並べて分けなければならない。これを女性がやるとなると夫が許さない、なんてこともあるのでは？(C委員)

- 男女共同参画に関して、振興審議会では女性は第三号委員がいるが女性地区長がいない。是非女性の意見を出してもらいたい。各団体の女性会も高齢化しており、今まで声を上げなかった女性達の提言をどう促すかが課題。市内での女性が活躍している起業例として、九野本のフランス料理店、旦那さんはいるが、九野本のベーグル屋、十日町のケーキ屋など。うちのNPO関連でも、中国語の先生、バレエの先生、料理の先生などは女性。彼女達の独立に向けての融資が難しい。(D委員)

#### ◆主要施策 No.3 交流

- 外国との交流よりも、地域内での交流の方が重要では？・国内での交流も地域交流もなかなか広がらない。高齢者の交流も課題。交流には経済活動との関わりがある。首長が交流事業で外に出て行ったら、何かしらの成果を持って帰ってきてほしい。手ぶらでは意味がない。(A委員)

- 日中友好協会とゼッキンゲンクラブは市とどういう関わりがある？(C委員)

→日中友好協会は事務局が市にある。ゼッキンゲンクラブは民間。(副市長)

- 交流事業は雇用に関わる。首長が外に出て様々ところで営業活動をし、商工面で関わりが持てれば雇用にもつながる。(C委員)

#### ◆主要施策 No.4 農業

- コメ離れが進む中で、長井の行き先はどこなのか。大きな目標がはっきり見えない。(E委員)

→コメは米価下落という問題も抱えている。今後は生産品の多様化や付加価値をどう生むのかが課題。新規就農する若者を増やしていくことも大事。次期計画では目玉となる事業を設けていきたい。(副市長)

○統計資料 P22（農家数等）は、当該年度の数値しかなく議論ができない。推移があると捉え方が違ってくる。次回までに資料を整えてほしい。（F委員）  
→対応する。（事務局）

○高知県馬路（うまじ）村では「ゆず」の生産・加工に注力。長井は何でもあるのは良いこと。しかし、一つでも特化したものがあるとなお良い。有楽町の居酒屋で「行者菜」が使われていた。コメ以外にもそういった産品をブランド化していくこともやっていくべき。（G委員）  
→「行者菜」はニラとの差別化が課題。（副市長）

○農業に対して希望がないと一般的に言われているが、人・農地プランによる就農支援（助成金）に17人が手を挙げている。制度的にその後が心配だが。また、長井のものを市民が食べられるような取り組みももっと必要ではないか。（H委員）

○レインボー野菜が給食として並び、循環の体制は整ってきたが、農業面の課題は大きい。レインボープランが農業の安定化には繋がっていない。レインボープランに関連して、No.4 農業の総括（案）で「農業経営の安定化が図られた」とあるが、その根拠は？統計資料では、改善の様子が分らない。（D委員）  
→農林課に聞いて確認する（事務局）

#### ◆主要施策 No5 林業

○森林買収への対策は何か行っているか。（F委員）  
○自治体独自で森林を保護する条例を作っていると聞く。長井でもやってみたらどうか。（E委員）  
→長井の西山は国有林になっている。また、組合などの共有林も多く、私有林は少ない。（事務局）  
○森林の90%が大丈夫だから良いんだ、ということではすっきりしない。長井は売らないというスタンスを示すべきでは。行政の言葉は、「じゃあ、どうするんだ」ということが全然見えてこない。（E委員）

#### ◆主要施策 No.6 工業

○いま海外進出が進んでいるが、かつてとは意味合いが異なる。儲けではなく、生存をかけて海外に出て行っている。長井の工場撤退も背景にはそれがあるかもしれない。製造業は行政を頼っていないから、総括の内容はしらじらしく感じる。為替などは行政ではどうしようもないが、電力などはもっとしっかりやってほしい。電力（需給量、電気代）という要素も海外移転には影響していると思う（特に電力消費型産業においてはなおさら）。また、補助金はあったとしても、農業も製造業もそれ以上に頑張ろうとしなくなる。ただ、何事も善悪両面ある。（E委員）  
→ものづくりについては、行政のできる役割は非常に限られているというのが実情。人材育成、受注拡大の情報発信等のお手伝いといったところで支援させていただいている（副市長）  
→受け手の問題もあるから、評価の仕方は難しい。たとえば、補助金については、リーマンショック後の雇用調整助成金は助かった。助成金を活用して繁忙期にできない社員教育にじっくりと取り組むことができた。ただし、取り組んだ企業はわずかしかなかった。（F委員）  
→確かに普段できない社員教育にじっくり取り組み、ISOを取得することができた。（E委員）

→セーフティネットとしての補助金もあるが、金融円滑化法がH25.3月で終わると、倒産が多く出てくる恐れがある。(F委員)

- 県立工業団地との記載があるが、来る企業はあるのか。例えば宮城県と比べると補助金の額が全然違う。またガサモノとなると運賃という問題が大きく影響してきて、選択の余地はなくなると思う。(F委員)
- 西置賜地区から米沢の八幡原工業団地へ通勤している人はほとんどいない。地元を受け入れる企業が必要だが、西置賜に企業の受け皿になる土地がない。そのため、県に要望している。(事務局)

#### ◆主要施策 No.7 商業・観光

- 観光は漠然としているからわかりにくいと思う。観光振興基本計画の策定の前段で調査をさせてもらった。そのときに100人くらいの人にヒアリングをした結果を紹介する。(⇒長井の強み・弱みについてのコメントの紹介があった)(G委員)
- 今は、山形鉄道として、人情と根性でなんとかやっているが、食事や土産の買い物が一か所のできる施設があればもっとより良くできる(訪れた人が長井にお金を落としてくれる仕掛けが必要)。(G委員)
- 長井は観光地なのか。(E委員)
- 光を観るのが観光。光があるところに人は行く。その光があるところが観光地といえる。(G委員)
- 秋田県増田町(現横手市)に出張で行った。そこは蔵のまちとしてPRしていた。(I委員)
- 長井にも蔵は多いが、道から隠れているのが残念。水路も隠れている。いろんなものがあるが、それぞれが目立たなくなってしまう( G委員)
- 観光には、観るところ・食事をするところ・土産を買うところのセットが必要だが、そのセットがそろっていないということか。(事務局)
- そういうこと。(G委員)

#### ◆主要施策 No.8 雇用

- 雇用はこれまで見てきた産業との関わりで成り立つ分野。単独での議論の余地はないのでは。(F委員)

#### ◆主要施策 No.9 健康・福祉

- 医療費は小学生まで無料ということであるが、それは市で賄っているのか。(J委員)
- 社会保険、国民保険など様々。国民保険に関しては、保険者負担70%のうち、国と県からの補助で4分の3、国保税で4分の1が賄われている。市は低所得者への減免分を負担している。(事務局)
- 50代の肥満が問題になっているとあるが、最近では高齢者のみならず20代も生活習慣病にかかる人が増えており、「未病」の考え方が重要になってくると思う。(J委員)
- バリアフリー化推進について、本町の街路事業で今後まちなかを整備することになると思うが、バリアフリーを意識した建設を実施してほしい。(J委員)
- まちなかのバリアフリー化については福祉生活あんしん課とも話しながら検討していきたい。  
(事務局)

○50代の肥満については、高齢者は活発に運動している印象があるが、40代・50代はスポーツをしたくても忙しくてできない状況であると思う。気軽に日常的にスポーツできるようなところをぜひ整備していただきたい。(K委員)

○施設の改修等も含めて市のほうの意向はどうか。(L委員)

→「健康日本21ながい」の改定の際に市民意向アンケートを1000人に実施するが、普段どこで運動しているかという設問も予定している。その回答等を参考にしていきたい。ウォーキングしている人も多い。生涯スポーツ課のほうでは一人スポーツ事業を推し進めている。今後関係各課と協議しながら進めていきたい。(事務局)

→他の市町村に比べて長井市はミニデーが活発。介護予防の運動に力を入れている。またパークゴルフやグラウンドゴルフをする人も増えている。体育館の利用率も高い。(副市長)

○個人的には卓球をするが、近くに施設があればやはりやりやすいと思う。(M委員)

→一か所にあるよりは、やはりいろいろなものが各地にあったほうがいいのかも。(L委員)

○食生活については、子どもの頃からの食事の習慣が大切だと思う。40代・50代になってから変えていくのは大変。(N委員)

○自分は4世代同居しており、メニューもかなり考えて作っている。一人一日350gの野菜をとるのが理想と言われている。かなりの量だが工夫すれば摂取できる。一度量ってみるとよいと思う。漠然とした知識ではなく、やってみることが大事。(J委員)

○私も4世代同居だった。以前は脂肪分の多い食事が多かったが、最近ではあっさりしたものを好むようになった。J委員の言うように一度量ってみたいと思う。(K委員)

→单身男性向けの料理教室や献立の見本を示すなど啓発にも力をいれていただきたいと思う。(L委員)

#### ◆主要施策 No. 10 保健・医療

○年に一度医療についての学習会があり参加しているが、38度の熱等のたいしたことのない病気でも救急でくる人が多く困っているというような話があった。本来救急で治療すべき患者さんの治療ができなくなり問題。指導が必要では。(J委員)

○一方で、救急車がいかなかったがために助からなかったという話もある。置賜総合病院の場合は、救急でくる患者のうち実際に救急と判断されるのは3割であると聞いた。7割はさほど緊急ではない。(L委員)

○救急車呼んだほうが待つ時間もなく治療してもらえるので、タクシー代わりに使う人もいる。(K委員)

→実際の救急車は、現場に行ってみて搬送を断ることもある。(副市長)

○市として救急車を呼ぶ際の基準のようなものはあるのか。(L委員)

→啓蒙を行っている。(副市長)

○健康診査について、受診率を上げれば寿命を延ばすことにもつながり、人口減少も抑えられるのでは。

(M委員)

○受診率はどのような状況か。(L委員)

→受診率45%を目指しているが、現状では30数%。集団検診を嫌うひともある。通知の時期を遅くし

たり、個別の医院でも検診が受けられるようにいろいろと工夫している。現在は4か所の医院で受診が可能。(副市長)

→回数増やせば、待ち時間は少なくなる。また日数も増やすなど工夫している。アンケートを実施して、なぜ受診しないのかという質問をしたら、①医者にかかっているから大丈夫、②健康に自信があるから、などの回答があった。医者には受診を促してもらうようお願いしているが、医者の中には自分が見ているから受診の必要はないという人もいてなかなか難しい場合もある。健康課のほうでもいろいろと工夫しているようだ。(事務局)

○検診の通知が来たが、別の機会を受けていたので、受けない理由を電話で健康課に知らせた。受けない場合、市民が一言連絡するようになれば、受診率が低い理由がわかるのでは。(J委員)

→地区長会などで啓発していくべきと思う。(L委員)

○がん検診は普通の検診にくらべてコストがかかる。しかし、がんは死亡原因一位であり、若い人のがんの進行は速い。がん検診の案内はどのような工夫をしているか。また補助はあるのか。(K委員)

→どこの市町村でも助成はしているが、長井市は助成率が低めで、少し遅れている。飯豊のほうなどは助成率が高い。案内は積極的に出している。(副市長)

○不妊については、気軽に相談できる場所・機会があるといい。(N委員)

→村山市が先進地。それに習って長井でもやりたいと考えている。(事務局)

→来年度予算に計上して、相談窓口の設置に取り組んでいきたい。(副市長)

○介護を受けるとき、成年後見制度(本人に代わって弁護士などが財産管理を行う)があるが、実際には活用しにくい。市民による後見制度を導入した方がいい。(M委員)

→自治体としての役割は認識しているが、なかなか進まないのが現状。(副市長)

#### ◆主要施策 No. 11 安全・安心

○新興住宅地のような場所には消火栓がない。そこにきめ細やかな対応が必要ではないか。要望を出しても実現しない。(M委員)

→水道管の径の問題もあって設置できない場所もある。確認する。(副市長)

○防犯灯の新設の要望は。またLED化は検討しているか。(L委員)

→7, 8件ある状況。全体のバランスを考えながら公共性の高いところから配置していこうと考えている。

LEDに関しては現在28個取り付け完了しているが、防犯灯は全部で3000個であり現在約1%。

新設する場合はすべてLEDにしているが予算がないため、数を絞って徐々に進めている。(事務局)

○消防団に若い人がいないといった問題はないか。(L委員)

→現在消防団員は全部で640名いる。定数そのものを減らしている。状況。勤務している人が多いので事業所の協力がなくて難しい。協力してくれた企業に対しては顕彰を行っている。常備消防だけでは活動が難しく、非常時に動ける消防団の力が必要。(副市長)

○長井市の防災計画と各地区との防災計画との兼ね合いはどうか。(M委員)

○館町南は防災計画しっかりしている。毎年独自に行う訓練もある。(J委員)

→9月2日に県と市合同で防災訓練を行う予定。小出地区から600人の住民の参加を予定している。長井市の防災計画については、現在改定中で素案はできている段階。平野は平野地区で一つの防災計画しかないので、細かく部落単位の計画が必要。市のほうでも支援していきたい。(副市長)

#### ◆主要施策 No. 12 循環

○レインボープランは長井市最高の施策。専門部会では総務部門に限らず、文教、厚生、産業・建設部会でもよく協議してもらいたい。(A委員)

○レインボープランだが、私は株式会社化が必要と考えている。現在のままでは更なる発展が難しい。

(B委員)

○レインボープランの理念は素晴らしいと思うが、これが先行してしまっている感がある。世代交代や若年層への広がりには必要だろう。レインボープランは世間の評価は受けているが、ブランド力を雇用に結び付ける手だてが必要。今のままでは20年前と何ら変わりが無い。農水省の施策がどうかは関係なく、理念先行型から実体経済に即して地域経済の循環型に。長井市でレインボープランを変革していく実行者が必要。(C委員)

○レインボー野菜が給食として並び、循環の体制は整ってきたが、農業面の課題は大きい。レインボープランが農業の安定化には繋がっていない。レインボープランに関連して、No. 4 農業の総括(案)で「農業経営の安定化が図られた」とあるが、その根拠は？統計資料では、改善の様子が分らない。(D委員)(再掲)  
→農林課に聞いて確認する(事務局)

○課題におけるレインボープランについての記載で「スタッフ、市民ともに世代交代が進んでいない。」とあるが、若い世代を育てる対策などしているのか。(O委員)

→レインボープランの理念は素晴らしいのだが、採算面で見ると持ち出しの方が多く儲からない、それで若い人でやってみようという人が出てこなくて、メンバーが固定化されてしまい世代交代が進まないものと思われる。市民もレインボープランを良く知ってはいるが自らは入っていかないようだ。(事務局)

→若い人にレインボープランの売り込みはしているのか。(O委員)

→個人的に協議会から声をかけられているが、できるかどうか悩んでいる。PRとしては、協議会のホームページやイベント、被災者支援などさまざまに情報発信していると思う。(P委員)

→レインボープラン推進協議会には広報部会という広報の専門部会があり、PRはしている。イベントにしても、来月はアルケッチャーノの奥田シェフを招いたイベントなど、話題性のあるイベントが多い。(事務局)

→レインボー堆肥は売れているのか。(Q委員)

→農協を通して売ってはいる。需要と供給では現状で精いっぱい。(事務局)

○レインボープランについては、世代交代を考えていかなければならない。委員には若い人も入ってきているが、三役はボランティアの割に仕事量が多く、難しい状況。学校給食にレインボー米などは提供しているものの、レインボー野菜をいかに使ってもらえるような仕組みづくりが課題。(J委員)

○設備は築15年で故障が相次いでいる。コンポストセンターは、小規模で効率のよいものを2つ作り、1

- つが故障しても稼働できるようにしてほしいとの意見がある。全国的にも循環型社会に対する意識は高まっている。レインボープランを中心に長井の売り込みをしていくべきではないか。(J委員)
- 学校給食の件については、提供してもらえる量が少なく使えないという課題がある。しかし試験的に日を定めて地元野菜の給食を出したりと工夫もしている。(事務局)
- 以前に大根を納入したとき、一つ不備があっただけで返されたことがあった。何件かの農家と契約するなどして、もっと計画的に供給できるシステムを作れないものか。(J委員)

○レインボープランを小型化して家庭でも気軽にできるようににはできないか。(L委員)

- 長井の力ではなかなか難しい。(副市長)
- 山大との共同研究などでぜひ実現してもらいたい。(L委員)
- 給食センターは保育施設等にも供給できるような仕組みを作れないかといった話も出ているので今後検討していきたい。(副市長)

#### ◆主要施策 No.13 共生

- 人間には2種類の人間がいる。ゴミを不法に捨てる人間と、捨てない人間である。犬の糞もしかり、人が見ていれば片づけるが、見ていなければ片付けない。これは親の教育が関係している。(Q委員)
- 再生可能エネルギーには、水活用の計画はあるのか。水のまちとしてぜひやってほしい。(Q委員)
- 県と野川土地改良区で今年度小水力発電の調査事業を行っている。市も一緒に取り組む。(事務局)

#### ◆主要施策 No.14 学校

- 課題に記載してある、「学区制度の弾力的運用」とは何か、もう少し詳しく知りたい。中道地区を南中学区から北中学区に変更することを意味しているのか。(R委員)
- 必ずしも北中・南中の学区制度に固定化しようというものではない。例えば親が離婚をして、親の都合で市内の別の学校に転校しなければならない場合、特例的に今まで通学してきた学校に通学を許可するであるとか、A中学校の部活にサッカー部がないからB中学校に通わせたい、等のニーズにきめ細やかに対応していきたい、という内容である。(事務局)
- 南北中学校は、設立当時は同じくらいの生徒数だったが、現在は南中が多くなっている。(R委員)
- 南中が北中より100人近く多い。子どもの多い世帯がどこにあるかで変わってくる。(事務局)

#### ◆主要施策 No15 生涯学習

- 成果について、「各地区公民館で様々な事業を展開している。」とあるが、具体的に何人来たのか、という参加状況の情報もほしい。(Q委員)
- 今すぐここで報告はできないが、地区公民館で把握しているはずなので確認したい。(事務局)
- 「父兄」という表現があるが、時代背景もあって近年は「保護者」と表現している。(Q委員)
- 修正する。(事務局)

#### ◆主要施策 No.16 スポーツ

○「市民ひとりスポーツの推進に成果があった」とは、何で計れるのか。参加者数や利用者が増えたということか。(P委員)

→長井市は各学校体育館の夜間開放事業が盛ん。ほぼ毎日すべての学校が利用されている状況。市民スポーツ大会やスポーツ教室の参加者数も生涯スポーツ課では把握している。一人で何種目もやっているのかどうかまではわからない。(事務局)

→学習プラザのところに運動公園が完成すればもっと利用者など増えるはず。プールはスイミングスクールなどががんばっているが、もっと大人へのPRの余地がありそう。(Q委員)

→市内全域にスポーツの推進を広げるため、「総合型地域スポーツクラブ」設立の動きになっている。西根地区にはすでに西根ときめきスポーツクラブがあり活動している。(副市長)

→西根はもともと西根体育協会という母体があって補助金を受けながら進めたもの。補助がなくなってからは地区から会費を集めるなど、財政的に運営が大変な状況ではある。(事務局)

→長井市の総合型スポーツクラブにはジムにあるような器具はあるのか。(P委員)

→整ってはいない。むしろ市民に親んでもらえるようなスポーツを提供する。各種目のノウハウを持っているのが各種協会。体育協会には市内の各協会がすべて入っているため、彼らのノウハウを生かす。  
(事務局)

→南陽市の総合体育館のように体力づくりの器具を整えるということではないのか。(P委員)

→それも含まれている。民間では器具を使った体力づくり一辺倒になっているが、体育協会のノウハウを生かせばスポーツ教室がもっと充実する。両方を総合的に進めるということ。(事務局)

→将来的には運営も含めて体育協会ですていくことを目指している。(副市長)

○南陽市の花公園のような、子どもが思いっきり遊べるような公園、施設を作る予定はないのか。

(O委員)

→長井市においては、生涯学習プラザで子育て支援センター「まぎーれ」ができた。そこを活用願いたい。また、生涯学習プラザの総合運動公園に、子どもが遊べる設備を取り入れる動きもあると聞いている。南陽市の場合は、多額の寄附があったことが整備のきっかけとなったようだ。(事務局)

→今のところ本市では、つつじ公園、あやめ公園、生涯学習プラザ、四ツ谷の児童公園等。それから、構想段階だが、市長が河川公園に遊具をつけたいという発言もしていた。(副市長)

→最近の子ども走るのが遅くなったと聞いた。以前は100mを12秒台で走る生徒が結構いたが、近年ではまれだという。そのような背景もあり、子どもには小さいうちから動き回る習慣を身に付けてほしいと思う。(O委員)

○課題に「指導者が年々減少」とあるが、最近北中のテニス部、卓球部が活躍しており、スポーツ少年団には優秀な指導者がいることも忘れないでほしい。(Q委員)

→長井市にはかなり広い種目のスポーツ少年団がありがんばっている。(事務局)

#### ◆主要施策 No.17 文化芸術

○長井の芸術・文化活動は、老人ばかりで、若い人がいないと感じる。(Q委員)

→50年の歴史がある長井芸術祭だが、長井文化協会に所属していないと参加できないという話を聞いたことがある。そのことが敷居を上げ、新規参入しにくくなっているのでは？もっと門戸を広げられないか。

(P委員)

→閉鎖的にする意図はなかったと思うが、若い人が入りにくい雰囲気あるかも。白鷹も同様らしい。協会は格調が高く、カラオケ同好会などでは参加しにくいと聞いたことがある。(副市長)

→これからは白鷹町や飯豊町と一緒にやっていった方がいい。(Q委員)

○市民文化会館の老朽化は深刻な問題だが、新築／修繕どちらの方向で考えているのか。(Q委員)

→新築／修繕両面で検討したところ、新築なら最低30億円、修繕でも最低17億円かかる見込み。国の補助事業を使って新築することも視野に入れていきたいと思う。いずれにせよ、市長は次期計画に盛り込むつもりでいるようだ。(事務局)

#### ◆主要施策 No. 18 文化財

○課題に「発掘調査を行うことができる専門職員がいなくなる。」との記述があるが、どういうことか。定年退職されるのか？(P委員)

→現在担当している職員が、今年を含めてあと3年で定年退職を迎えてしまう。(事務局)

→長井市では、学芸員の採用はできないのか？(Q委員)

→そのようなことはない。学芸員の資格を持っている職員だっている。(副市長)

→しかし、一口に学芸員といっても、埋蔵文化財とか様々なジャンルがあり、ピンポイントで欲しい人材がいるかといえば、いないのが現状。(事務局)

→本市のような小さい市では、専門の職員を継続的に雇うのは難しい状況。(副市長)

→専門家で構成するNPOを作ってもらえれば、そこへの委託なども考えられる。広域で検討する動きもある。(事務局)

#### ◆主要施策 No. 19 交通基盤

○かわまちづくり計画とは、どんな内容のものか。「かわの駅」とは違うのか。(F委員)

→舟通し水路などのこれまで行ってきた整備が主なもの。(副市長)

→「かわの駅」とも関連している。(事務局)

○フラワー長井線の改善計画は進められるのか。(E委員)

→社長就任当初、はじめは10万人の観光客を呼び込み、1億円収入増にすればなんとかなると思っていたが、それは旅行会社側の人間としての考えであった。しかし、現実には会社だけでは無理がある。会社と行政との責任の明確化が必要である。上下分離方式であれば、経営改善の可能性はある。(G委員)

→野村社長にだけ任せていけばいいんだと考える市民が多いのが問題では。問題には、あいまいにしている問題とあいまいにしてはダメな問題がある。あいまいにしてはダメなものにしっかり取り組んでいかないと、いまやっている人が傷つくだけ。(E委員)

### ◆主要施策 No. 20 都市基盤

○（時間がなく議論できず。次回に検討する。）

### ◆主要施策 No. 21 情報化

○長井市のHPについて、市内のお祭り等のイベント情報が調べにくいと感じている。もう少し簡単に検索できると行ってみようかな、という気になる人が出てくると思う。（P委員）  
→長井市のHPは今年12月にリニューアル予定だが、山鉄や観光協会、商工会議所の情報を集約して、イベントカレンダーを作ってみたいと考えている。（事務局）

### ◆主要施策 No. 22 行財政

○行財政改革は今後どうなる？引き続き予算は削減か？（A委員）  
→H23年で一区切りついた。引き続き予算削減は行すが、一方的な削減はやらない。それよりも効率的かどうかで判断していく。職員についても、数を増やすのではなく、能力を高めることで人件費が上がらないようにしていく。（副市長）

○財政は歳入が増えることは期待できない。レインボープランやフラワー長井線、地場産センターなど、市の支出を伴う事業の赤字を黒字化することが大事。例えば、地場産が市の財政に好影響をもたらすように。こういう改善は第五次総合計画を待たなくてよい。来年にでもダイナミックに改善が必要。（C委員）

○ここで書かれている人材育成とは、職員の人材育成ということか。（Q委員）  
→そのとおり。（事務局）  
→長井市では近年、社会人採用をしているが、そういった人の意見を積極的に取り入れているか。（Q委員）  
→本市で社会人採用を強化しているのは、30代の中堅職員の層が薄いこともあり、そういった層を厚くすることも目的としている。前職が活かされるような部署については、例えば前職が製造業の職員は企業振興室に配属しているし、適材適所の人材育成を行っている。（副市長）  
→社会人採用の職員には、市役所に入ったからと言って長いものに巻かれるのではなく、前職で得た経験をもとに積極的に自分の考えを主張し、改革すべきところは改革して行ってほしい。（Q委員）

### 【次期計画に必要な視点について】

（P委員）

○長井は水の街ということで、小水力発電に期待したい。  
○生涯スポーツの推進など、長井はまだまだ改善できるところがあるように感じられる。お金がない中でも良いアイデアで伸ばしてほしいと思う。  
○本町の街路事業に伴う道路拡幅工事で、長井の貴重な文化財の流出が懸念されている。道路拡幅工事と文化財保護は両輪であり、一体で考えなければならないと思う。箱物というわけではないが、そういったもののセンターなども総合的に考えてほしい。

(R委員)

○やはり子どもが少なくなっていることが気になる。公民館イベントで人が集まらないのも、レインボーで世代交代が進まないのも、全体数が減っていることにプラスして、若い人の社会への関心が薄まっているのではないか。今の中学生も10年後は大人になる。「子ども」を考えていくべき。

(O委員)

○子どもに目を向けて考えると住みよい街になるのではないか。子どもが元気いっぱい体を動かして遊べる場所の確保を計画に盛り込んでほしい。

○外に発信できる長井の目玉を作れば、人が集まってくるのではないだろうか。

(Q委員)

○長井の心を中心に、子どもたちの学力をしっかりとつけていかないといけない。長井市で把握していないかもしれないが、引き籠りの若者は市内にいると思う。そういった人達をゼロにしたい。

○いのちをつなぐ教育を強化し、自然に大人になったら家庭を築くことができるようにしたい。現在30代、40代で親と同居している独身の若者が何とか結婚できるようにしたい。

○施設について、長井市には沢山老朽化した施設がある。今は部分修復になっているが、施設に関する全体計画をぜひ考えてほしい。

(B委員)

○消費増税が始まる。TPPも参加の可能性がある。地域経済循環をしっかりとやっていかないと地方は潰れる。地域のリーダー育成を。ビジネスとして考える頭を。コミュニティビジネスとして動かせる人材育成を。そして、市職員にもビジネス感覚を備えてもらいたい。

(C委員)

○6月30日の北川先生に講演頂いた際の内容(テーマ『新しいローカリズムの時代』)のように、地域経済の循環をしっかりとしてほしい。教育面でも、長井の子どもは優秀な人材として育てていると思う。彼らが大学等で外に出て行っても長井に戻って来られるように雇用の受け皿を作ってほしい。これは既存のものでは駄目。レインボープランが出来たように、新しいものを作ること。そして、考えるよりも実践を。市職員もアフター5から動いて自分が考えた施策を市長に提言できるようになってもらいたい。

(D委員)

○総括(案)は良くまとめてくれていると思う。ただし、図や表、活動の写真で示すことも大事。交流など数値で評価できない所もあるだろう。

○一人一人の力をまちづくりに生かすために、自発的な研修に広く参加することが必要。